

# みなとつぷ

Takanawa  
Community News Magazine

高輪地区情報紙 2021年3月 Vol.43

三田4・5丁目・高輪  
白金・白金台

発行：高輪地区総合支所 協働推進課  
編集：みなとつぷ編集室



<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>

「第4回まちを画廊に来て見展」応募作品 (主催) 一般社団法人みつ蛭・まちを画廊に来て見展実行委員会



表紙絵 「天国の蒼空」  
【作者】利光羽奏さん (白金の丘学園6年生)

【作者からのコメント】  
初めてアクリル絵の具で描いた作品です。音楽を聴きながら無心で描き進めていくと、だんだんイメージが湧いてきて、時間を忘れて夢中で描いていました。まだまだ小学生の絵ではありますが、楽しんで見てもらえたら嬉しいです。

## CONTENTS

### 2 街が変わる

災害のない住みやすい街を目指して

### 3 この街にこの人あり

山崎 一穂 (やまざき いちねん) さん

作曲家

サバイバル・プロデューサー



### 4 5 地域のおしあと

昭和初期の白金の様子

### 6 地域で活躍する女性たち

「高輪女性防火の会」  
設立30周年を迎えて

### 6 私だって地域の一員!

「みんなに笑顔を」  
マルプーのエマちゃん



### 7 東日本大震災から10年

首都直下地震に備える防災対策

### 8 区からのお知らせ

## 地域は歴史と人材の宝庫!

地域情報紙「みなとつぷ」の編集委員になって、気がついたら10年以上もたっていた。

当初、2〜3年だけのつもりで参加したが、長く続いた理由を考えると、何よりもこの地域は、歴史がいっぱい、魅力溢れる人々がいて、歴史、人材の宝庫ということだ。

インタビュ記事、第一線で活躍の音楽家、画家などの多くのアーティストや学者、評論家の方々など、お忙しい中、気持ちよく取材に応じてくださり、掲載が続いている。

今は亡きシャンソン歌手、石井好子さんのご自宅で、パリでのお話をゆっくりとお聞きすることができたことなど、良い思い出になっている。

次号はどうしようかと困っていると、必ずどなたかが「是非この方を」と紹介してくださり、地域の温かい輪、つながりを感じる。

高輪三田には、江戸時代からの由緒ある約60のお寺があり、戦前、高台の家々からは海が見えていた。白金、古川橋あたりは戦前、500以上のバルブなどの金属加工工場が並び、商店街、映画館などがあり、賑やかで活気溢れる街だったとのこと。白金台には、畑も多くあったということなど、全て取材を通して知り、多くのことを学んだ。

私もすっかり地域の歴史に魅せられて、300年前、細川家にお預けとなった大石内蔵助は、高輪の樹齢約400年の椎の木を眺めたのだろうかと思像するだけでも楽しい。

また高輪地区には、10の大使館があり、大使館取材も何度か企画した。数か国の大使にお会いして、お国の歴史、産業、観光など魅力の多くをお聞きすることができた。大使夫人にお料理を紹介していただき、掲載したこともあった。今後も機会があったら、紙面で大使館の紹介をしたいと思う。

「みなとつぷ」は、各編集委員の取材のあと、編集会議で活発な意見交換のもとに作成されている。最近、「みなとつぷ、読んでいますよ、先号よかったですよ」などと言われることもあり、うれしい励みになる。

今後も情報紙の取材を通して、地域でご活躍の方々にお会いして、貴重なお話をお聞きできたらと願う。

# 街が変わる 災害のない住みやすい街を目指して

## 白金一丁目東部北地区が大きく変わる

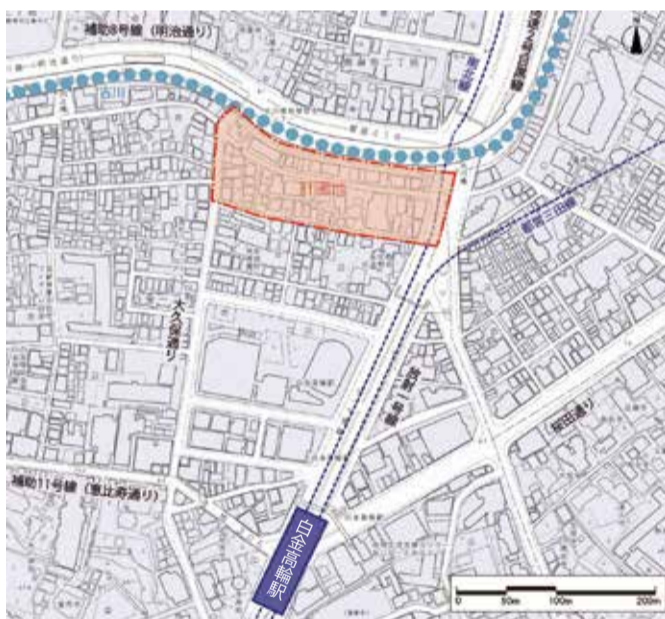
白金一丁目東部北地区で大規模な市街地再開発事業が進められている。中心となっている事業は高層及び中層のマンション建設で、住戸数は1,247戸と「現在、山手線内で進められている住戸プロジェクトとしては最大級」(白金一丁目東部北地区市街地再開発組合)という。このプロジェクトの発端となったのは災害に強い街づくりだ。近くを流れる古川の増水に耐えられる住宅を、の願いから始まっている。

同地域は過去、古川の増水によって被害にあっている。浸水被害の防止、老朽化した住宅などの建て替えが課題となってきたことを受け、平成16(2004)年にスタートした。有志による「白金のまちを考える会」から始まり、その後組織の改編などを経て平成25(2013)年に都市計画決定告示となり平成27(2015)年に市街地再開発組合の設立認可という道をたどってきた。災害に強い街を目指したので広域をカバーする必要があり、事業規模は大きい。

計画区域面積は約1.7ha(ヘクタール)、ここに地上45階と地上19階建の高層及び中層のマンション棟と地上4階建の工場・病院棟を建設する。建築物の最高高さは約156m。力を入れているのが増水対策で、再開発区域全体を1m以上かさ上げしている。さらに防潮板の設置を行い「費用はかかるが、自動防潮板の設置も考えている」という。

### 公園のほか「広場」も用意、交流の場に

大規模住宅の場合、近隣住民との関係も一つのテーマだが、面積約500m<sup>2</sup>の公園も整備され誰でも利用できる。さらに各区分所有者の所有



位置図 (白金一丁目東部北地区市街地再開発組合提供)



外観 (白金一丁目東部北地区市街地再開発組合提供)

ではあるが約800m<sup>2</sup>の「広場」も計画され、地域のイベントなどにも活用できるように検討を進めている。またこれまで古川は川岸が閉鎖されていたが幅約6mの歩行者通路が新たに設けられ誰でも川沿いを散歩できるようになる。令和4(2022)年中に建物の工事を終え、令和5(2023)年4月から入居が始まる見通しとなっている。周辺地域では東地区がすでに再開発を終え街の表情は変わってきたが、北地区の始動でさらに変貌は加速しそうである。



配置図 (白金一丁目東部北地区市街地再開発組合提供)

### 白金一丁目東部北地区市街地再開発組合 理事長 おしみゆうじ 押見裕司さんに聞く



白金一丁目東部北地区市街地再開発組合  
理事長 押見 裕司

### 浸水に耐えられる街づくりを 地域住民との交流を大切に

東部北地区は古川の増水によって被害を受けてきた過去があります。このために地域が一体となって再開発を進めて災害に強い街づくりしようというのが事業の発端です。私は父の代から地域の住民で、早い段階から立案にかかわってきたことと前の理事長が健康上の理由で退任されたことから私が理事長を引き受けることになりました。街づくりでは地域の住民が仲良くすることが大切だと思っています。このプロジェクトは1,200戸を超える大規模プロジェクトですが、入居されるかなりの方々(約3分の1)はもともとのお住まいになっていた方です。また各戸の住居面積も多様で、住民のニーズに配慮しています。地区のイベントにも協力していきます。

再開発の課題の一つが従来の地域割りとか関わり合いをどうするかです。一つの例をあげるとこの地域には新広尾古川町会と白高町会の2つの町会からなっています。新たな住区が誕生したのち旧来のままで良いかどうか考えなくてはなりません。こうした点も今後話し合いを進め納得できる解決策を作り出したいと思います。この地域は東地区の再開発がすでに終わり、2年後には私たちの東部北地区再開発が完了します。この動きがさらに広がると、地域が一段と変化するでしょう。

# この街にこの人あり

作曲家 サバイバル・プロデューサー

やまざき いちねん  
**山崎 一穂さん**

## 笑いと歌で防災をアピール！

ポピュラー音楽界の著名な作曲家で、また高輪地区の住民として、防災など地域活動に大活躍されている山崎一穂さんにお話をうかがいました。

### ● 高輪地区について

関西のご出身ですね。高輪地区に何年位お住まいですか？お住まいになっただきっかけは？

高輪地区に来て、23・4年になります。港区にはテレビなどのメディア関係の会社が集結しているので、仕事には便利です。地方出身者にとって、東京タワーが、すぐ近くにあることも魅力ですね。

### ● 防災について

阪神淡路大震災の時、大阪の実家と連絡がとれず、やっと連絡がとれたのが3日後でした。日頃から防災に対して関心を持たなければと思うようになりましたね。

地域との町会とか御田小地区防災協議会で地域活動されていますね。

芸能関係の方は、地域の方々と接触することを好まない方が多いですね。私は、災害時の対応を考え、地域の方々



【プロフィール】山崎 一穂 (やまざき いちねん)

●大阪府茨木市出身の作詞作曲家、編曲家。昭和29 (1954) 年生まれ。関西学院大学在学中に、フォークグループ三輪車のメンバーとして活動。その後、作編曲家ならびにプロデューサーとして活動している。第50回日本レコード大賞「歌鬼 (Ga-Ki) ～阿久悠トリビュート～」で企画賞受賞、第54回日本レコード大賞「もしも明日が～三木たかしトリビュート～」で2度目の企画賞を受賞する。三田豊岡町会防災副部長、御田小地区防災協議会所属、防災士、日本音楽著作権協会正会員

と積極的に接するようにしています。地域活動では、人前に立ち、イベントをプロデュースするような役割を引き受けています。

地域の防災活動ではどんなことを心掛けていますか？

防災という言葉が堅苦しいように思い、自分ではサバイバル・プロデューサーと称しています。

町会で防災訓練を主催した時、とにかく人が集まりませんでした。多くの方を参加させるには、面白い、興味深い企画が必要と考えました。

そこで、防災をテーマにした面白い防災コントを考え、それを慶應義塾大学の「お笑いサークル」の協力を得て、イベントで実演してもらいました。それから、防災イベントの参加者が、少し増えました。

防災訓練では、消火器の使い方、消火器具の使い方、救命救助の仕方、避難の仕方など覚えることが沢山あります。

私は作曲家なので、防災の基本的な知識を防災ソングとして、歌で覚えることができるようにしました。30曲位作りましたね。

防災訓練には、若い人の参加が必要ですね。

港区の総合防災訓練では、参加される

方は、ご高齢の方が多くですね。災害時に、救助する側の若い人の参加がもつと必要です。

学校の授業の科目の一つとして、「防災」を入れる必要性を感じています。

幼児教育、小学校、中学校で12年間学べば、立派な防災戦士になり、災害時には頼りになると期待していますよ。

大震災の時は停電などで情報が得られず、大混乱が予想されますね。

その時のために、各町会毎にトランシーバーを配備運用したら、町会員同士、町会同士の連絡に使えるのではないかと私が提案しました。現在、港区では、各町会でトランシーバーを用意することを薦めています。トランシーバーも災害時だけ使うのでは、いざという時、使い方もわからず役に立たないこともあり。お祭りなどで普段から使っている慣れていることが大事です。私は使い方を小・中学生に教えています。子ども達は、あつという間に使い方をマスターしてしまっていますね。港区の防災には「戦力となる若い力」が必要ですね。

提案されたことを実現されていることがすごいですね。秘訣は？

基本的には、ボトムアップで周囲を巻き込む方法が良いのですが、行政や企業のトップの方に直接お願いするトップダウン方式で進めることでうまく実現することがあります。

鳥取大地震の時、港区が鳥取被災地を支援しました。この時も行政のトップの方に直接訴えて、実現しました。

支援物資についても、企業のトップの方にお願ひして、心よく協力していただきました。

防災食・防災用品の備蓄についてどうお考えですか？

町会での備蓄は、スペースも、予算もないのであまり期待できません。マンション管理組合での備蓄についても、住民の意見の集約が困難で、難しいです。原則、個々のお宅にお願いするしかありませんね。

震度7の直下型大地震が起きた場合、食料の備蓄は、1週間分以上必要だと思います。

高層マンションの防災対策はどうお考えですか？

新しい高層マンションでは倒壊の危険は少ないと思いますが、課題は多々あります。

避難所は、高層マンション住民を収容するキャパシティはありません。港区は基本的に「在宅避難」を想定しています。問題は「停電した時」です。冷暖房や調理など、私たちは電力に依存した生活をしていきます。

水をくみ上げるポンプも電気が必要なので、断水になります。

携帯電話、インターネットを使った情報手段も途絶えます。エレベーターも停止し、使えなくなりますね。

非常用電気設備を持っていても、備蓄燃料が3日間位しかない建物が多いです。地下にある場合、浸水によって使えなくなる可能性があります。

エレベーターは、電力が回復してもエレベーター管理会社から技術者が来ないと、すぐには使えません。

これらの課題を克服することを日頃から考えていないと在宅避難は厳しいことになります。

高層マンションの防災対策は重要ですね。

### ● 歌手、作曲家としての活動について

歌手としてどのような活動をされましたか？

中学・高校時代からバンド活動を始め、大学時代に、学生仲間3人でフォークグループ「三輪車」を結成してデビュー。たまたまデビュー曲「水色の街」がヒットし、上京し、ほぼ毎日テレビに出演していました。

大学を卒業すると、家の稼業を継ぐことになっていましたが、それがいやで芸能界に留まろうと作曲家に転向しました。大阪の吉本や松竹芸能の番組テーマなどを手掛けることになり、その結果「第2



令和元年度に行われた防災活動の様子

のキタタロー」などと言われるようになりましたね。しかし、キタタローさんは、二人もいない(笑)と考え東京に戻ることにしました。

### 作曲はどのように勉強されましたか？

私の父の大学の同級生で、作曲家の小坂務さん(歌手小坂明子の父)の指導を受けたことがあります。ほとんど独学でした。

随分多く作曲されていますね。今まで何曲位作曲されていますか？

CMソング、ドラマ、映画音楽などを含めると3,000〜4,000曲を作曲しました。著名な歌手の曲も数多く作曲しています。

### コロナ禍の影響は受けていますか？

音楽イベントの中止により、音楽業界そのものが冷え込んだため、仕事は減っていますね。

LINE、ZOOMなどを使ったオンライン打ち合わせが普通になっています。私の母校(大阪府立茨木高校)の同窓会もZOOMでやりましたよ。余談ですが、同窓会ソングを作ろうということになり、調子に乗って「カラオケ」に登録。日本中、世界中のカラオケで歌えて同窓会ができます。これは世界初ですね。(笑)

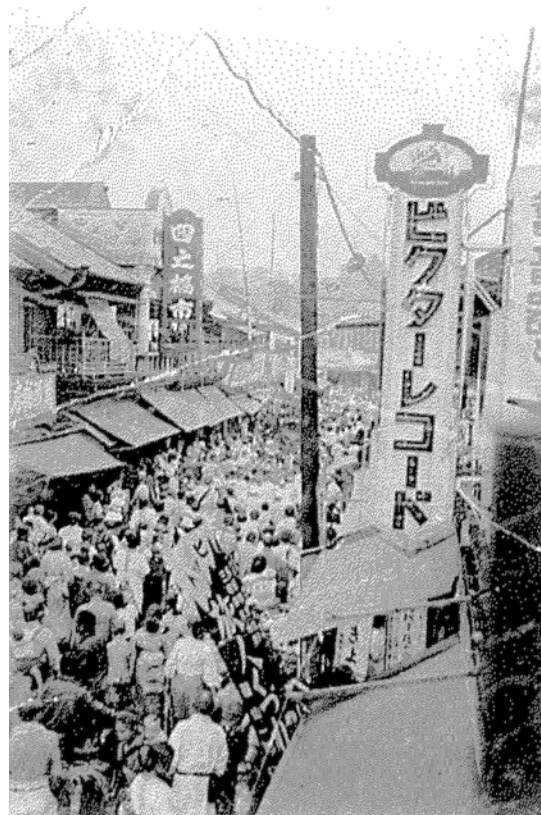
### 取材を終えて

明るく、楽しい方でした。これだけ音楽界で実績がある方が地域活動に積極的に取り組まれているのに、感服しました。また、人のネットワークづくりがすごい方だと思いました。

(担当)安藤、松島、吉田



昭和初期のにぎわっている四の橋商店街(現 白金商店街)の様子(白金商店会会長小林靖彦さん提供)



# 地域のあしあと 昭和初期の白金の様子

白金地区は再開発等で街の姿がこれから大きく変わることが予想されます。古くから白金に住んでいた方々のお話では、昭和初期の白金の街は町工場や商店が多く賑やかで活気のある街であったそうです。その当時の街の姿を後世に伝えようと、四の橋商店会の「魚米」元店主、故 醍醐哲太郎さんが自分の記憶から当時の地図を作成しました。この地図をもとに、古くからお住まいの方々のお話をお聞きしながら昭和初期の白金地区の様子をまとめました。



古川橋三叉路とゴーストストップ 昭和6年



四の橋 昭和34年  
(白金商店会会長小林靖彦さん提供)

## 白金の歴史

### 古川沿岸の工場地帯は近代製造業発祥の地

白金の地に人が住み始めたのは3,000年ほど前の縄文時代といわれている。雷神山付近から同時代の石斧が出土されたことからこのあたりに集落があったことがわかる。

南北朝時代の応永年間(1394～1428年頃)、南朝の下級役人であった柳下上総介がこの地を開墾した。柳下氏が大量の銀を持っていたことから「銀長者→白金長者」と呼ばれ、いつしか「白金村」とそのまま地名となったと伝えられている。

江戸時代は武蔵國豊島郡と荏原郡の境界線上にあったため区画が定まらず白金村は入会地(共同耕作地)とされていた。

明治になって武家屋敷の跡地に、桑や茶の植え付け希望者に耕作の奨励が行われ、明治6(1873)年頃の白金は台町、猿町、三光町で4万坪の桑畑があったといわれている。その後、畜産経営も始められ、明治末から大正にかけて白金を含む芝区には数多くの牧場があり、牛乳の生産が盛んに行われていた。

この地域の北側を流れる古川は、江戸時代から原料や製品の舟運が可能だったことから沿岸では小さな家内工業(紙漉き業)が続けられていた。

白金に工場が設立されるようになったのは明治27(1894)年で、明治の終わり頃には数軒の鉄工所ができた。さらに第一次世界大戦(1914年～1918年)を契機として芝浦の工業地帯が活気を呈し、大工場の好転に伴って古川沿いには鋳物工場やメッキ工場等町工場が続出した。工場で働く人々、その家族等人が増えるに伴い、住宅、商店が建ち並び、街は活性化し、この一帯は「町工場地区」として急速に発展していった。大正12(1923)年の関東大震災では、白金は大きな被害はなかったこともあり、周辺の被災した人々が集まり、急激に人口が増大した。その後、昭和6(1931)年の満州事変、昭和7(1932)年の支那事変以降の軍需景気に伴って、さらに町工場が林立し、商店街は全盛期を迎え、街の繁栄が続いた。

白金村が白金三光町になるのは明治24(1891)年で、その後、昭和44(1969)年の「住居表示」の実施により白金三光町、白金志田町などの全域又は一部を合わせて現在の「白金」となった。

参考文献：森崎次郎(1983)『白金の歴史』港区史跡の会  
『東京人(増刊)2019年7月 特集「白金を楽しむ本」』都市出版株式会社  
『まち探訪ガイドブック』港区産業・地域振興支援部



白金三光町 昭和32年



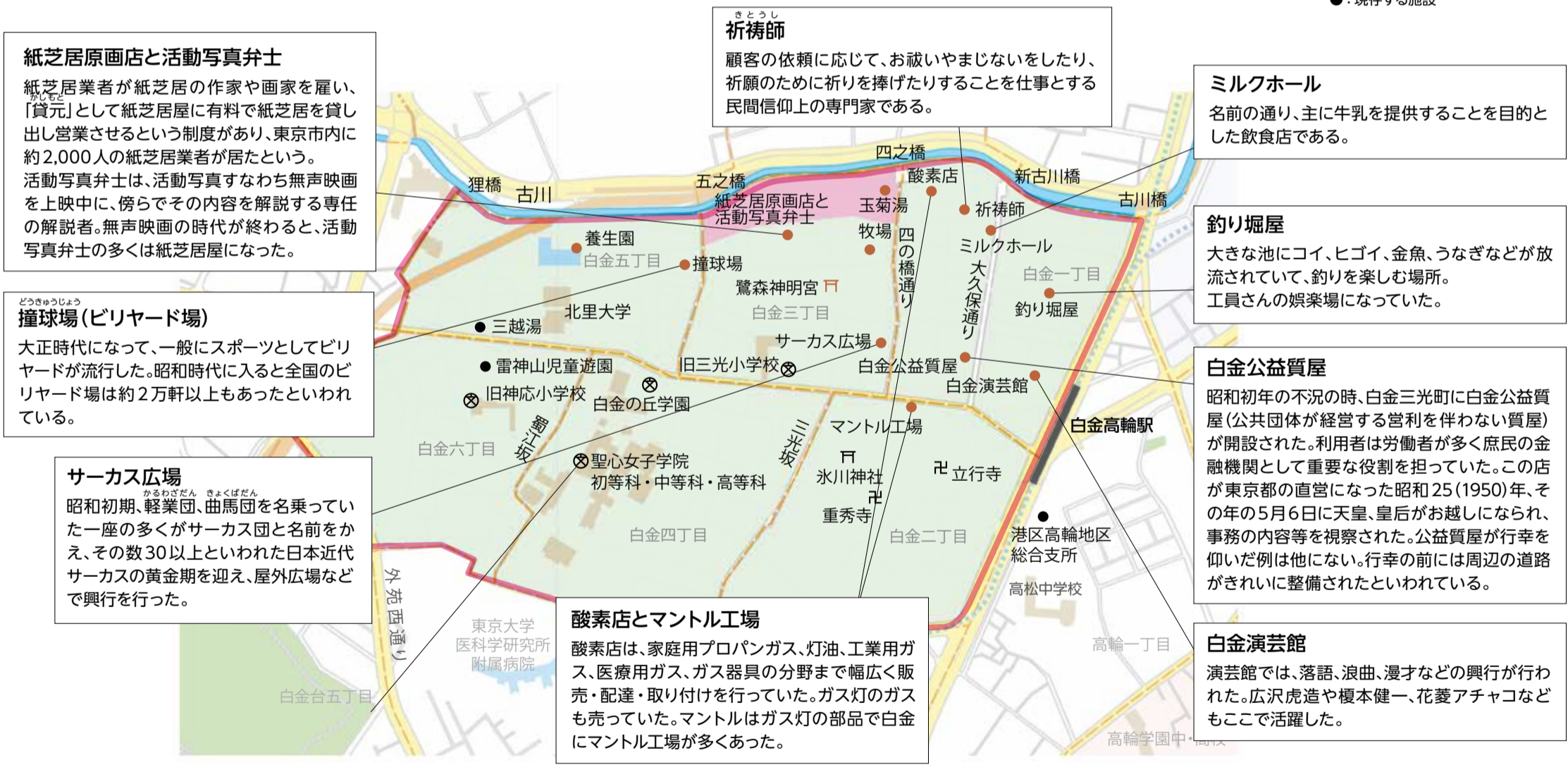
古川橋交差点 昭和37年 (高輪今昔物語提供)  
(白金商店会会長小林靖彦さん提供)



大久保通りの街並み(昭和20年代) (高輪今昔物語提供)

## 昭和初期にあったお店、施設などの現在の位置

施設等の位置は故 醍醐哲太郎さん作成の地図や渡邊義信さんのお話に基づいています。



## 白金商店会会長の小林靖彦さん(86歳)のお話

私は岐阜県の生まれで、白金には昭和28(1953)年に来ました。商店会会長を長く務めている(30年)関係もあって昔の白金、主に今も住んでいる四ノ橋界隈の様子を聞いています。白金商店街が出来たのは明治43(1910)年で、当時銀座などにあったガス灯をつくる工場の工員さんが通るので商店街ができたといわれています。その後、昭和の初めにかけ様々な工場が次々にでき、そこで働く工員さんや家族など大勢の人々が集まり商店街は相当な繁盛をしたそうです。私が現在経営する洋品店が開業した昭和22(1947)年頃でも工員さん用の軍手や足袋がよく売れたときいています。正月には住み込みの工員さん用におかみさんが下着を大量に買っていったそうです。

私が商店会会長になった時には118軒あった商店が今は66軒になりました。バブルの時、工場が移転して、人が減り、それに伴って商店が少なくなりました。この商店街も再開発地域で個人商店が高層マンションなどになってしまうようですが1階部分には必ず商店が入るようにと要望しているところです。



白金商店会会長の小林靖彦さん

## 白金地区にゆかりの人

以下の記述は、白金に永くお住まいの方々からのお話をもとにまとめました。

### 大佛次郎(おさらぎ じろう、1897年～1973年)

白金小学校卒業。白金三光町に居住。小説家、作家。『鞍馬天狗』シリーズなど大衆文学の作者として有名な他、歴史小説、現代小説、ノンフィクション、新作歌舞伎や童話などまで幅広く手がけた。

### 二代目広沢虎造(ひろさわ とらぞう、1899年～1964年)

白金三光町出身。昭和時代の浪曲師、俳優。23歳で2代目広沢虎造を襲名。戦前から戦後にかけて国定忠治、清水次郎長伝などを持ちネタに一世を風靡した。

### 小林秀雄(こばやし ひでお、1902年～1983年)

白金志田町に生まれた。白金小学校卒業。小学生の時から作文が得意であったといわれる。文芸評論家、編集者、作家、美術・古美術収集鑑定家。

### 榎本健一(えのもと けんいち、1904年～1970年)

白金三光町に叔母がいて、一時期、叔母の家に住んでいたことがある。俳優、歌手、コメディアン。当初は浅草を拠点としていたが、エノケンの愛称で広く全国に知られていた。「日本の喜劇王」とも呼ばれ、戦前・戦後に活躍した。

### 高橋貞二(たかはし せいじ、1926年～1959年)

一時期、白金三光町に住んでいたことがある。俳優。佐田啓二とともに松竹の二大スターといわれた。「橋山節考」、「早春」など102作品に出演。

地域で活躍する  
女性たち

## 「高輪女性防火の会」設立30周年を迎えて

高輪には30年にもわたり、地域の防災活動に務めてきた「高輪女性防火の会」があります。設立以来、会長を務めてこられた伊関則子<sup>いせきのりこ</sup>さんにお話を伺いました。

「高輪女性防火の会」は「各家庭及び地域における防火防災思想の普及並びに防災行動力の向上を図る」「地域と連携を保ち、安全な町づくりを進める」ことを目的に、各町会から代表が数人ずつ参加し、平成2（1990）年5月に会員67名で発足しました。当時、昼間家にいることの多い女性の防火防災思想の普及・啓発を行い、自分たちの町は自分たちで守るということを主眼に活動していました。

主な活動内容は、春秋の火災予防運動に伴う巡回広報・視察研修です。初期の研修では、三角巾の巻き方や人工呼吸、AEDの訓練、防災館の見学など基本的な防災知識を実践的に学びました。

最近ハイパーレスキュー隊の訓練見学、南多摩総合防災施設での化学災害対応訓練の視察、東京消防庁臨港消防署の水難救助訓練見学、東京消防庁高輪消防署港南出張所の消防艇視察など、防災の最先端技術で私たちの町がどのように守られているのかを学んでいます。

平成25（2013）年には、当時の両陛下ご来臨の「消防団120周年・自治体消防65周年記念大会」に列席しました。



品川駅での火災予防啓発活動



火災予防運動に伴う巡回広報



視察研修（平成28年度）

また、消防職員の方々から臨場感あふれる救出活動のお話を伺ったり、日頃の訓練の成果を拝見する機会がありますが、消防職員の方の日々のご努力に只々頭が下がる思いです。学んだことを自分たちの町会や町へ戻り、多くの住民の皆様へ還元するのも重要な仕事です。

こうした活動に対し、平成22（2010）年8月「住宅用火災警報器設置促進への協力に対する消防総監感謝状」、平成26（2014）年「安全で安心のできる港区にする条例に基づく表彰」、平成28（2016）年「東京都功労者表彰」などを受賞しました。

設立以来30年が経ち、世の中の様子も変わってきました。設立当時は、昼間家にいることの多い女性を中心でしたが、時代の移り変わりとともに役割も変わってきています。現在は65名で活動中ですが、次世代にバトンタッチすべく、本会の目的にご賛同頂ける女性は大歓迎です。

「防火防災という言葉に反応する人を、周囲でもう1人増やしていきましょう」と設立2年目の総会で述べた覚えがあります。生活様式や時代が変わっても、地域で防火防災の意識を啓発するという理念は変わらず、今後も活動を続けていきたいと思っています。

（担当／小林、吉田）



私だって  
地域の一員！

### 「みんなに笑顔を」 マルプーのエマちゃん

飼い主：内藤ゆかりさん（港区高輪在住）



ワタシってママ似？ パパ似？



得意の二足歩行



ボール遊びも大好き

ワタシの名前は、エマ。令和2（2020）年3月4日生まれの女の子で、パパはトイプードル、ママはマルチーズ。よく「ぬいぐるみみたい！」って言われるの。生後2か月くらいでママのところに来てんだけど、毎日が楽しくってあっという間に一日が終わっちゃう！

ワタシ、お座りもお手も出来るけど、二足歩行が得意なの。最近お気に入りのさつまいものにおいがすると、思わず二足歩行しておねだりしちゃうんだ〜♪

うちの周りはクルマや自転車が沢山走っているから、最初はお散歩に行くのが怖かったけど、慣れたらこれが楽しくって〜♪最近リードを見ると、ママに飛び掛かって「早く行こうよ〜！」って、急かしちゃう。

お散歩に行ったら、すれ違う人にもワンちゃんにもちゃんとお挨拶するの。消防署の人にも、郵便屋さんにも、宅配便のお兄さんにも。長いシッポをブンブン振って、コンニチハ〜♪って。そうすると、みんな笑顔になってくれるの。泣いている小さな子も泣き止んでくれるのよ！それがまた嬉しくて、もっとシッポ振っちゃう〜♪

いつもママに「はしゃぎすぎちゃダメよ、優しくコンニチハしてね」って言われるんだけど、みんなが笑顔になってくれるから、つい嬉しくてはしゃぎすぎちゃうの。

今度、お散歩で皆さんに会った時にもちゃんとお挨拶するので、ワタシを見て笑顔になってね♪

（担当／松島、滝川）

# 東日本大震災から10年 首都直下地震に備える防災対策

平成23（2011）年3月11日14時46分頃に発生した東日本大震災は、22,000人以上の死者と行方不明者が発生した大災害です。令和3（2021）年3月で、この震災から10年が経過します。現在私たちは、新型コロナウイルス感染症との共存生活を続けています。しかし、自然災害はコロナを理由に待ってくれることはありません。改めてこの節目の10年となる今、発生が危惧される首都直下地震への対策を始めましょう。

## 災害による被害を減らす 自助・共助・公助

災害による被害を少なくするには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域で助けあう「共助」、行政が取り組む「公助」が大切です。しかし、広域な大規模災害には「公助」の限界が指摘されています。いざという時に、自分を守るのは自分自身です。各家庭でできる対策を始めましょう。

### 対策① 家具転倒防止対策

近年発生した地震でケガをした原因を調べると、3～5割が家具類の転倒・落下・移動によるものでした。区では、家具類の転倒防止器具を無償で支給しています。

### 対策② 備蓄対策

大震災発生時には、物流機能とライフラインが損傷する可能性があります。災害への備えは、日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入し備える「日常備蓄」が有効です。

### 対策③ トイレ対策

地震により下水管や建物内の排水管が損傷し、各家庭の水洗トイレが使えなくなる可能性があります。過去の震災では、避難所のトイレには長蛇の列ができ、トイレが感染源となる集団感染が発生しました。

排せつ物を処理する便袋（し尿をためる袋）と凝固剤がセットになった、携帯トイレの備蓄を始めましょう!!

## マンションの防災対策

戸建て住宅が多かった高輪地区にも、近年再開発により大規模な高層住宅が多数見られるようになりました。区では、高層住宅は地震による倒壊の危険がほとんどないため、避難所ではなく自宅で生活を続ける「在宅避難」を原則としております。先述の家具転倒防止対策や備蓄対策などの他に、高層住宅にお住まいの方々にとって必要な対策を紹介します。

### 対策① 安否確認方法をルール化する

高層住宅は、外部からの救助に時間が掛かる場合があります。災害時は、管理組合や防災組織が協力をして、各戸をまわり安否確認をする場合があります。マンション内のルールとして、安否確認カードをドアに貼り付け無事を伝えるなど、事前にルールを決めて訓練をしましょう。

### 対策② 排水管の安全確認ができるまで水を流さない

地震により、排水管が損傷している可能性があります。損傷時に水を流すと下階で水が漏れだす危険性があります。管理者より安全が確認されるまでは水を流すのは控えましょう。

### 対策③ エレベーターには乗らない

発災直後は、エレベーターが動いていても余震や停電・故障等により閉じ込めの危険性があるため、エレベーターに乗らずに階段を使って移動しましょう。

## 高輪地区で活躍する地域支援チームに参加しませんか？

高輪地区総合支所では、災害時などに地域の力として活動する防災ボランティアを養成しています。高輪地区で活動する防災ボランティアの方々が集まり、自主的に活動しているグループが「地域支援チーム」です。

港区総合防災訓練（高輪地区）の子ども向けコーナーや、普段の防災訓練に参加されない子どもや保護者向けにも防災の普及啓発を行うため、地元町会が主催するお祭りなどで防災ブースを出展しています。

地域支援チームに参加し一緒に活躍していただける方を募集しています。

問合せ 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 TEL：5421-7621



地元町会が主催するお祭りでブースを出展する様子

## 東日本大震災の概要

平成23（2011）年3月11日14時46分頃に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0、三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近、深さ約24kmを震源とする地震でした。この大震災では、太平洋沿岸部に巨大な津波が襲いました。各地を襲った津波の高さは、福島県相馬では9.3m以上、宮城県女川漁港で14.8mの津波痕跡も確認（港湾空港技術研究所）されています。

震度5強が観測された首都圏では、交通機関が不通となったため、帰宅困難者と呼ばれる勤務先や外出先において被災をし、帰宅が難しくなった人々が大量に発生し、徒歩で帰宅を試みる人々で大混雑が発生しました。また、関東の広い範囲で液状化現象が発生し、水道・電気・ガスといったライフラインが一時ストップする被害が生じました。



3.11 当日の品川駅付近の道路



区からのお知らせ

タウンミーティングTAKANAWA2021

支所で実施している事業に携わり、メンバーと一緒に考え活動してみませんか。

- 対象** 高輪地区に在住・在勤・在学の方、または高輪地区のために活動したい方
- 内容** タウンミーティングTAKANAWAのメンバーとしてそれぞれのテーマに沿って高輪地区で活動していただきます。
- 任期** 1年間(令和3年4月～令和4年3月)
- 第1回会議日程** 令和3年4月9日(金)午後6時30分～高輪区民センター
- 申し込み方法** 希望するグループ名・住所・氏名・年齢・職業(学校名)・電話番号・メールアドレスを明記し、郵送またはFAXで下記へ。  
港区ホームページの応募フォームからも申し込みできます。  
※応募多数の場合は、初めての方優先、年齢バランス等を考慮して抽選します。
- 締め切り** 令和3年3月22日(月) 必着

**【あて先・問合せ】** 高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当  
〒108-8581 港区高輪1-16-25  
TEL:5421-7123 FAX:5421-7626

●募集グループ

グループ名	活動内容	募集人数	活動の頻度
1 地域情報紙グループ	高輪地区の地域情報紙「みなとつぶ」の発行に向けて、編集員として企画・取材・編集を行います。	15名程度	平日夜間に、年間20回程度(毎月火曜に開催予定)(各号の編集スケジュールによる) ※取材・撮影は、主に昼間に行います。
2 高輪今昔物語グループ	地域の魅力を発信するため、高輪の「今昔物語」を製作し、児童館やいきいきプラザなどでの出前講座やまち歩きを実施するほか、物語を動画で配信します。		平日夜間に、月1回程度(毎月金曜に開催予定)(土・日曜等にイベントを実施)
3 高輪みどりでつながるプロジェクトチーム	地域の緑を活用した取組を企画し、地域の子もたちと協力して花の育成活動や壁面緑化などを行います。	20名程度	平日夜間に、月1回程度(毎月火曜に開催予定)(土・日曜等にイベントを実施)

※報酬・交通費はありません。※会議の際に保育を希望する方は、ご相談ください。



高輪みどりでつながるプロジェクトチームの活動



高輪今昔物語グループの活動

「高輪地区町会・自治会潜在力向上プロジェクト」  
地域の「潤滑油」となる講座

**講座内容** この講座は、お住まいの町会・自治会で、実際に活動していただく担い手の育成を目的としています。全5回の講座では、お住まいの町会との顔合わせを行うほか、地域の歴史や町会・自治会の活動、課題等を学び合います。

- 対象** 高輪地区に在住者
- 定員** 20人程度(申込順)
- 費用** 無料
- 講座概要** 5月から11月までの全5回(予定)  
(主に土曜日、日曜日を予定)詳細は、広報みなと4月1日号及び港区ホームページの募集記事(4月1日以降)をご覧ください。



**【問合せ】** 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 TEL:5421-7621

「やさしい日本語」を  
学んでみませんか?

区には130以上の国籍を持つ方々が暮らしています。そのため区では、どこの国の方でも会話ができ、外国人と日本人が協力して地域活動を行えるよう、日本語を少し簡単な表現にした『やさしい日本語』を積極的に活用することを広めています。お住まいの地域で、『やさしい日本語』をどう使っていいかわからない』『外国人の方とどうコミュニケーションをとればよいかかわからない』『言葉の壁があり交流できない』というようなお困りごとがございましたら、ぜひ地域振興課国際化推進係までご相談ください。

**【問合せ】** 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係  
TEL:3578-2565

自転車の損害賠償保険に加入していますか?

令和2年4月から自転車損害賠償保険等の加入が義務化されました

■港区民交通傷害保険【港区で受付を行っている保険】

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院・通院の治療日数と治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。  
自転車または身体障がい者用車いすの所有・使用・管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したりしたこと等によって発生した、法律上の損害賠償を補償する「自転車賠償責任プラン」もあわせて募集します。

※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。

■加入対象者

令和3年4月1日時点で港区に住所・勤務先・学校がある人

■保険期間

令和3年4月1日午前0時～令和4年3月31日午後12時

■このご案内は概要を説明したものです

詳しくは、区のホームページ、損害保険ジャパン株式会社東京公務開発部営業開発課(新宿区西新宿1-26-1)までお問い合わせください。TEL:3349-9666(平日午前9時から午後5時まで)

■問合せ

高輪地区総合支所  
協働推進課 協働推進係  
TEL:5421-7621

■引受保険会社

損害保険ジャパン株式会社  
承認番号: SJ20-10541  
承認日2020/12/01



港区HP

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとつぶ バックナンバー

編集だより

▼東日本大震災から10年になります。あの災害の記憶を教訓に、今後、起こることが予想される首都直下地震などの災害に備えるよう、2,3,6,7ページは防災をテーマにしました。普段から防災の意識を持つことが大事ですね。(安藤)

▼著名な音楽家の山崎一穂さん、音楽活動に加え地域の防災活動に積極的に取り組む中で子どもの頃から防災教育をすべきと仰ったのが印象的でした。語り口が楽しく思わず引き込まれました。(吉田)

▼港区内各地で再開発が進んでいます。災害に強い住区や整った街並みが誕生しています。一方で、生まれ故郷が昔のままの姿を残しているところや、暮らしやすいさと原風景への想い。今号で「街が変わる」を担当しました(阿部)

▼白金在住の古老の方々が記憶を頼りに復元させた地図を見ると、今では聞いたこともないような職種の店が立ち並んでいる。そういった家業や商店が消えていく過程には、数々の物語があったであろうと、往時が偲ばれる。(伊関)

▼10年前の3月11日。いわゆる帰宅難民でした。翌日帰宅後、ご近所さんに食事をいただき、自助共助の大切さを痛感。誰もが協力してレジリエントな社会をつくりたいですね。(小林)

▼白金の古老の方々が復元された地図、地域に対する愛がこぼれ、驚きと尊敬です。再開発で、高層マンションなどにだんだん変わるようですが、町の楽しい雰囲気、何らかの形で残してほしいと願います。(滝川)

▼街の再開発の取材に参加して、お話を聞きました。大規模な再開発になると、色々と情勢が大きく変わるなど苦労が多いことを痛感しました。(平尾)

▼この地域はマンションが多く、沢山のマンションを見てみると、それぞれの窓にそれぞれの人生があると思ひ、複雑な気分です。取材の途中にそんなことを考えてしまいました。コロナが一日も早く終息し、幸せな窓が増えますように。(松島)

区民編集メンバー

- 安藤洋一(チーフ) 滝川まりえ
- 吉田由紀子(サブチーフ) 戸部田伊織
- 阿部泰 平尾恭一
- 伊関則子 松島佐紀子
- 小林由夏
- 近藤悦代

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。

事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係

5421-7612 / 保健福祉係

5421-7085